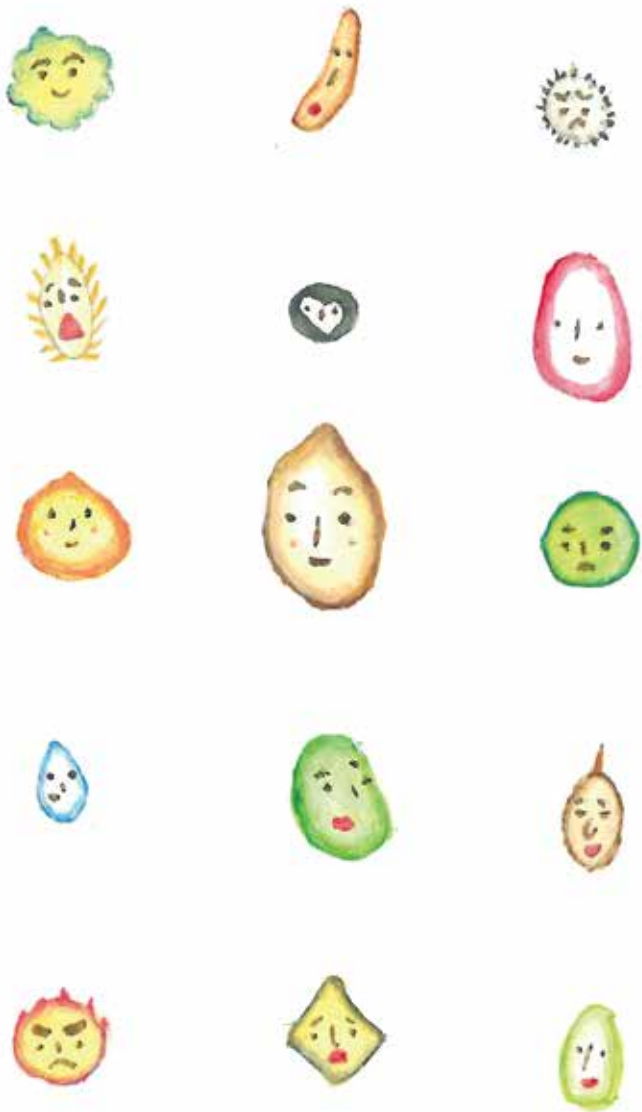




ら

楽は苦の種 苦は楽の種



「かるた」をつくろうとすると、50音にあわせて、1枚ずつ読み札を考えることになります。「じりとり」でも、「ら」や「る」で詰まってしまうのですが、「AKAGOかるた」も「ら」「る」「れ」で困りました。そんな折、ふと出てきたのがこの言葉です。「人が生きていくと、いいことも悪いこともある。しかし、それがずっと続くことはない。」みたいな意味で使うことが多いようです。

実際にこの言葉を使う時は、人が何かしら困ったり苦しんだりしている時。「今はしんどいよね。でも、ずっとそのしんどさが続くのではないんだよ。しんどかった分だけ楽しいことが待っているよ。」といういたわり、なぐさめの気持ち

ちを相手に伝えたい時。反対のケースは余りないと思いますが、使うとしたら、あまりにも今うまくいっておりルンルンしている人に対して、ちょっと忠告的に使う感じでしょうか。

「種」みたいにちっちゃかった赤ちゃんが、毎日毎日過ごしているうちに、いつの間にか、自分よりも大きな大人になっていたり…、日々いろんな苦労があっても、笑顔を見るとふっとんできましたりすることから、読み札の1枚として入れてみました。